



山大病院だより

退任のご挨拶



- 医学部附属病院
- 看護部
- 看護部長

花田 千鶴美

私は、今年3月をもちまして39年間働かせていただいた、山口大学医学部附属病院を定年退職いたします。これまでの皆様方の御厚情に深く感謝いたします。

宇部市で育った私は、昭和46年4月に、憧れていた山口大学医学部附属看護学校に入学し、卒業と同時に附属病院に就職、そして現在に至ります。考えてみますと、学生時代も含めて、この病院に42年間の長きにわたりお世話になったことになりました。

看護師としての思い出は、マイペーすで先輩を心配させた整形外科での新人時代、仕事の継続に迷った30代、看護の楽しさ、難しさに気付いた40代、看護部管理室に足を踏み入れた50代、どの時期においても患者さんを含めた人との出会いに助けられました。本当に幸せな看護師人生だったと思います。

特に思い出するのは、平成16年4月、法人化の年にまわりの状況の変化に引き込まれるように看護部長に就任し、1年目は戸惑いの日々が続きました。就任当時の沖田病院長からは、看護部長としての心得を優しく、時には厳し

く教えていただきました。次の松崎病院長時代は、診療報酬が大きく変わる中、看護体制7対1の取得等、看護部の病院経営参画に向けて、一緒に取り組んでいただきました。この時期に看護職副院長も拝命し、役割の大きさが今も身に染みています。岡病院長は、一貫して看護部の自律を認めていただき、温かく見守っていただきました。また、歴代の事務部長はじめ事務部の方々も看護部運営に協力的で大変感謝しています。

最後に看護部門では、法人化とともに「変化に強い組織づくり」「看護の質の向上」「看護部職員が自分の組織に誇りがもてる」を目標にマグネット看護部をめざしてきました。その結果、離職率は、全国平均を大きく下回り、特に新人の離職率0%は継続しております、誇らしく思っています。まだまだ残っている課題もありますが、後に続く優秀な後輩たちが、新看護部長を中心に頑張ってくれと信じています。

今後は、一宇部市民として、誇れる山口大学医学部及び附属病院のますますのご発展をお祈りしています。

「多くの人との出会いに感謝」

心身共に健康で、大過なく無事勤めを終えることが出来るのもひとえに皆様のおかげと深く感謝いたしております。

39年前、昭和49年4月に当院に就職し、内科系、外科系、集中治療、救急、外来棟、検査診療部等、9部署を経験しました。最初の配属部署は一内・二内・放射線科の混合内科で、アットホームな雰囲気です。楽しく仕事をすることができました。ただ優しいばかりではなく、掃除の仕方から礼儀作法まで厳しく教えられました。今もその教えが役に立っています。

平成10年に集中治療室へ配属後、まもなく高度救命救急センターの立ち上げに携わることとなり、準備として2病棟4階への引越越しや、集中治療看護の勉強のための東西間のローテーション等、3階東西の協力体制は不可欠なものでした。また、第31回全国集中治療医学会の引き受けとなり、医師、看護師、コ・メディカルが一丸となり学会が成功した時の感動等、昨日のことのように想い出されます。管理者としては2年〜4年と短い期間のローテーションでしたが、集中治療室、高度救命救急センターでは患者さんやご家族に寄り添う看護の大切さを教えられました。第一外科では、当時希望が多かった二交代制勤務を導入することができました。

最後の4年間は、外来棟、検査診療部の兼任でした。病棟と違い患者さんとの関わりは少なく、少し寂しい気持ちもりましたが、医事課職員の方をはじめ、総務課や設備の方等多くの方々と出会い、いろいろと助言やご協力をいただき外来運営をスムーズに行うことができました。

外来棟、検査診療部の看護師は子育て期の人が多く、4人の子育ての経験が役に立つように思います。昨今ワークライフバランスのことが話題になり当院でも時短制度などの支援が導入されましたが、早く大学敷地内の保育所がリニューアルされ、安心して働ける環境がさらに充実すればいいかと願っております。

これから病院機能評価受審や新病棟建設等、課題が多くありますが、チームワーク、組織力を強化し、乗り切っていたきたいと思います。長い間お世話になり本当に有難うございました。

退任のご挨拶



- 医学部附属病院
- 外来棟、検査診療部
- 看護師長

倉田 町恵

退任のご挨拶



● 医学系研究科
● 保健学系学域 基礎検査学分野
● 教授

梅田 昭子

2000年10月に山口大学医学部保健学科に着任しました。医療技術短大時代には微生物学を教える専任教員がおらず、非常勤講師で対応していたため、学生の微生物学の成績がひどく悪かったそうです。微生物学専門の教員を入れなければ、という目的で私が選ばれたのだと聞きました。

講義は次年度の春から良かったのですが、年明けに行われる国家試験のための対策授業をして欲しいと着任後に要望がありました。それから2か月余り、臨床検査技師の国家試験過去問題と問題集を徹底的に解析し、受験したことが無い自分でも、これさえ解ければ微生物では合格できるだろうという問題プリントをA4で16枚ほど作成しました。今でもそのプリントを少しずつ改訂し、学生への国試対策に役立てています。

以前所属していた九州大学医学部と違い、保健学科検査技術科学専攻では各学年40人ですし、学生との距離がとて近く、12年半いつも学生が側にいたような気がします。山口大学に来て、教育の大切さを学びました。人を育てる難しさ、こちらが一生懸命相手のために努力すれば応えてくれる喜びを知ることができました。

山口大学での12年半は、私の人生でも充実した時だったと、学生とスタッフの皆さまに感謝の気持ちで一杯です。

本年の3月で退職することになりました。私は、昭和49年に本学医学部を卒業し、研修医、本学の大学院を終えた後、山口大学医学部附属病院検査部の助手となりました。その間に米国のジョージア医科大学へ2年間留学し、臨床検査医学の助教授を経て、平成11年から医学部保健学科の教授を13年余勤めてまいりました。病院との関わりは、主に助教までの18年間で、検査部のサービスマネジメント業務、輸血部の当直、ポリクリでの学生指導、委員会活動などで働かせていただきました。検査値の向こうには見えないが患者さんが常にいらっしゃることを意識して仕事に臨みました。この経験はその後、保健学科の検査技術科学専攻で学生を教えるときに大変役立ちました。医学の単なる知識でも経験に基づいて学生に伝えると、知識が学生の脳裏に焼きつくようです。

「大学病院」は決して単なる病院ではなく、学生(あるいは医療人)の教育・研究に如何に活かせるか、が問われるところに特徴があると思います。地域貢献の最たる機関でもあります。そして、山口大学医学部附属病院はそれを立派にこなしておられると思います。

平成22年から留学生センター長、24年から国際・社会連携副学長として、全学の活動にも関わっており、医学部及び附属病院が如何に山口大学の中で活動力に富んだ部署であるか、を思い知らされております。

最後に、拙い私に仕事の場を与えてくださった附属病院及びそのスタッフの皆様深く感謝いたします。同時に、附属病院のこれからのさらなる発展を心から祈っております。

退任のご挨拶



● 医学系研究科
● 保健学系学域 病態検査学分野
● 教授

服部 幸夫

退任のご挨拶



● 医学系研究科
● 保健学系学域 病態検査学分野
● 教授

松田 昌子

山口大学医学部を卒業してちょうど40年の節目に定年退職の時を迎えました。卒業後、2か月間、検査部で研修医、その後5年のブランクを経て、第二内科(現、器官病態内科学)に入局、9年間病棟や外来業務に携わった後、医療短大(現、保健学科)に赴任し、その間、週1日の外来業務を担当してきました。

特に思い出深いのは、10年前の2003年に開設された国立大学病院では初の「女性診療外来」に準備の段階から加わり、運営に携わってきたことです。当時の沖田病院長、松崎副病院長の下、病院全体の支援を受け、他科の女性医師や看護師をはじめとするコ・メディカルスタッフが専門、職域を超えて連携し、開設にこぎつけました。部屋のデザインを決め、診察室の机や椅子を院内各所から調達してきてくれたのは当時の外来看護師さんたちでしたが、受診された女性の患者さんたちの反応が予想以上に良かったことに励まされて10年間を過ごすことができました。

各科の先生をはじめ、附属病院の皆様には長きにわたり大変お世話になり、そのご厚誼には心より感謝しております。今後の皆様のご活躍、ご健康と、附属病院の益々のご発展をお祈りします。

退任のご挨拶



● 医学系研究科
● 保健学系学域 基礎検査学分野
● 教授

渡部 省二

平成12年10月に保健学科の創設とともに赴任して12年半、その前の農学部(吉田地区R1)時代を含めると、山口大学に19年間お世話になりました。

保健学科では臨床検査技師養成のための生物学、生化学、分子生物学の教育に携わってまいりました。吉田地区R1にいた頃は教育の担当はわずかでしたが、保健学科に赴任してからは講義・実習の担当が非常に多く、当初は大きな負担と感じていました。しかし、医療人をめざす若い学生達と接する中で、私自身も大いに勉強させられ、それまでの研究センターの生活とは違った良い経験をしたと思います。

学問することの喜びと研究の面白さを学生に伝えられるよう努力したつもりですが、卒業生が、医学部附属病院あるいは他の病院で臨床検査技師として活躍するのを見て、頼もしく、また嬉しく思いながらも、果たして自分ほどの程度貢献できたのか、と反省もさせられます。

最後に、医学部、附属病院、さらに山口大学の今後の発展を祈りつつ、退任のご挨拶いたします。

退任のご挨拶



● 医学部
● 学務課
● 課長

宮崎 睦美

山口大学職員として退職前の4年間、医学部附属病院で仕事をやる機会を得、貴重な体験をさせていただきました。また、この「病院だより」に挨拶の場をいただきました。また、私の仕事は、学務課で学生さんの修学のサポートをすることで、直接、病院の方々と接することはほとんどありませんでしたが、学生の実習等では皆様には、大変お世話になりました。私自身この4年間、様々なことを経験しました。特に医学部に勤め始めた年の5月、新型インフルエンザが猛威をふるい、感染防止のための病院の方々の迅速な動きには目を見張るものがあり、これが医療人だと痛感しました。また、深夜、先進救急医療センターから学生の怪我や急病による処置の電話連絡をいただき、昼夜を分かたず働いておられることに頭が下がる思いでした。

医学部で仕事をして日々感じたことは、何事にも迅速であり、組織として一丸となつての取り組みが出来るということでした。危機管理意識が高く、それは、人の命を救うことが最優先であれば当然のことだと知りました。そして、病院の方々に、医療だけでなく学生の教育にもご尽力いただいたことをここでお礼申し上げます。

医学部学生の教育は病院との連携なしには考えられません。そして、私自身は先生方に最良のサポートができていたのかと反省しております。今後、国際的医学教育認証を視野に入れた臨床実習の充実で、学生実習の時間数・内容等が大きく変わることになります。附属病院の方々に、今まで以上に負担が増えることになるかと思いますが、これからも協力いただきますようよろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、附属病院の益々のご発展と皆様方の健康を心よりお祈り申し上げます。ありがとうございました。

退任のご挨拶



● 医学部
● 学務課
● 副課長

松富 昭子

医学部学務課に4年間勤務させていただきました。吉田での勤務の長かった私にとって、医学部での勤務は、とても新鮮なものでした。

人の命を預かる職業につく学生さんと、臨床現場で働きながら学生を指導されている教員の皆さんの緑の下の力持ちとなれたか、今となっては悔いることばかりですが、気の引き締まる思いで勤めた4年間でした。

良い経験をさせていただき、とても感謝しております。今後の医学部・附属病院のますますの発展を祈っております。

退任のご挨拶



● 医学部附属病院
● 第二病棟
● 看護師

藤井 美智子

私は、1974年4月、医学部附属病院に就職し、定年退職するまで39年間勤務することができました。

最初は整形外科に配属となり、その後、皮膚科、脳外科、眼科、放射線科、歯科口腔外科、精神科神経科など多くの科で働かせていただきました。

今では当たり前になっているコンピュータも1990年代に導入され、手書きの記録からコンピュータ入力に変更、看護問題から看護診断に変更など、様々な変化がありましたが、ここまで続けてこられたのも皆様のご指導のお陰と感謝しております。有難うございました。

退職後も、もう少し附属病院に勤務すると思いますので、今後ともよろしくお祈り申し上げます。

先生方、職員の皆さま本当にありがとうございます。ごうざいしました。

平成24年度

医学教育等関係業務功労者表彰報告会

野村康子看護師が、文部科学大臣から、国立の大学における患者診療等に係る補助的業務に関し顕著な功労のあった方として「医学教育等関係業務功労者表彰」を受賞され、平成24年12月6日(木)、病院長室において報告会が行われました。

岡病院長から、永年の功労に対する敬意並びに今後のさらなる活躍を期待する旨の祝辞が述べられました。

当日は、花田看護部長、猪上副看護部長も同席し受賞を祝しました。



受賞者の野村看護師を囲んで記念撮影

平成24年度

定年退職者の皆さま

長きにわたりご活躍され、この春に退職される先生方・職員の皆さま本当にありがとうございました。

医学系研究科 保健学系学域

- 梅田 昭子 教授 基礎検査学分野
- 服部 幸夫 教授 病態検査学分野
- 松田 昌子 教授 病態検査学分野
- 渡部 省二 教授 基礎検査学分野

医学部 学務課

- 宮崎 睦美 課長
- 松富 昭子 副課長
- 岡崎 京子 事務補佐員

医学部附属病院 看護部

- 花田 千鶴美 看護部長
- 板垣 智恵子 看護師長/第二病棟
- 倉田 町恵 看護師長/外来棟、検査診療部
- 山本 紀代子 副看護師長/外来棟
- 野村 康子 看護師/第一病棟八階西
- 藤井 美智子 看護師/第二病棟
- 柿田 勝幸 看護師/第二病棟
- 山田 和子 臨時用務員/第一病棟三階西
- 大草 準子 臨時用務員/第一病棟六階東
- 前坂 静子 看護補佐員/外来棟
- 笠井 年子 看護補佐員/外来棟

皆さまお元気で!



お知らせ(TV放送)

「山口から世界へ!」世界をリードする最先端の研究をわかりやすく地域へ紹介!!

医進! 前進!

~山口大学医学部研究室探訪~

放送日 毎週水・土・日曜日
11:45~12:00、20:00~20:15
※放送時間は、変更される場合があります。

放送局 山口ケーブルビジョン(ケーブルTV)
上記時間帯にて、絶賛放送中!!

ご意見・ご要望をお待ちしています!!

今後、ますます充実した誌面にしたいと考えておりますので、読者である皆さまからの活発なご意見・ご要望をお待ちしています。

ご意見・ご要望は **FAX** 0836-22-2113
こちらへ **E-mail** me202@yamaguchi-u.ac.jp

●編集担当(総務課・総務係: K.T.、C.I.)

編集後記

今号の編集にあたり、ご退職される皆様とお会いしたのですが、医療の現場に長年携わってこられた皆様のお人柄に触れ、お話しした時間は少しではありましたが、尊敬の思いでいっぱいになりました。皆様が築かれてきた医学部、附属病院をこれからもっと発展させられるように、私たちも気を引き締めてがんばっていきましょう♡ご退職者の皆様、本当にお疲れ様でした。そして、ありがとうございました。

